

事務事業の概要・計画（PLAN）

事務事業名	グリーンツーリズム対策事業	会計名称	一般会計			担当課	農林水産課			
		予算科目	6 款	1 項	11 目	事業番号	2791	所属長名	向井裕臣	
事業評価の有無	■ 評価対象事業 □ 評価対象外事業（事業の概要・結果のみ）						担当責任者名	池内伸至		
法令根拠等	農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律						実施期間	【開始】	平成	17 年度
総合計画での位置付け	産業振興都市の創造							【終了】	平成	年度(予定)
	魅力ある農業の振興								■	設定なし
総合計画における本事業の役割	魅力ある農業の振興に係る都市農村交流の促進									
事業の対象	グリーン・ツーリズムを推進する農林漁業者及び商工業者				事業の目的	グリーン・ツーリズム（GT）推進協議会に対する活動助成により、受け入れ態勢の充実や技術研修、先進地視察、情報交換等を積極的に行うことが可能となり、以って知識醸成や地域の意識高揚に貢献することを目的とする。				
事業の内容（整備内容）	グリーン・ツーリズム活動に資する補助金支出事務及び活動支援事業				昨年度の課題に対する具体的な改善策	協議会会員間の連携強化に努め、事務局提案型から主体的な団体間連携事業の企画・立案・実施に向け育成指導を図る。				

事業活動の内容・成果（DO）

事業費及び財源内訳（千円）							事業活動の実績（活動指標）						
項 目		前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項 目	単位	28 年度実績	29 年度予定	9月末の実績	29 年度実績
財源内訳	直接事業費	420	420	0	0	0	420	GT体験受入者数	人	21768	22000	15128	22699
	国庫支出金		0	0	0	0	0						
	県支出金		0	0	0	0	0						
	地方債		0	0	0	0	0						
	その他		0	0	0	0	0						
	一般財源	420	420	0	0	0	420						
職員の人工（にんく）数		0.40	0.46				0.46						
1人工当たりの人件費単価		8,086	8,017				8,017						
※ 直接事業費＋人件費		3,654	4,108				4,108						
主な実施主体		伊予市グリーンツーリズム推進協議会		実施形態（補助金・指定管理料・委託料等の記載欄）		補助金							
向こう5年間の直接事業費の推移 （千円）						30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	5年間の合計		
						320	320	320	320	320	1,600		
成果指標	指 標	当該年度のGT体験受入者数/前年度のGT体験者人数×100				単位	⇒	区分年度	28 年度	29 年度	30 年度	目標 毎 年度	
	%					目 標		100%以上	100%以上	100%以上	100%以上		
	指標設定の考え方	GT体験受入者数を昨年度実績と比較することで事業効果を測る。						実 績	136	104.3			
	指標で表せない効果	自主的活動の体制構築による連携は、地域の魅力や重要性の再確認、地域資源の再認識に繋がり、本事業の効果は地域の活性化という観点からも大きいものと認められる。											

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 （今年度の途中経過）			各実需者の集合体であり一体感が得られにくい。協議会機能の拡充を図るため、個別及び役員会を持った。更なる協議により組織活動の活性化を図る。									
事業 												

施策を踏まえた判断	二次判定	☐	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		☐	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		☐	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		☒	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 未来戦略に掲げる事業のため、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		☐	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容 ・体験型について、個々の役員や協議会に加盟している者にこういうところがあるという連携を取って営業すればよい。 ・いろんな団体がアイデアを出すことにより、地元の人も巻き込んで活性化につながると思う。 ・未だに行政任せというか、行政がやってくれと言えば少し動くけど、自発的には動かない様子に見える。積極的にやりたい人がいないのであれば、もう止めるというのも後ろ向きではあるけれど、一つの選択肢ではないか。 ・留学生のモニタリングをやっている。留学生にSNSで発信してもらうと、人気が集中するかもしれない。 ・大洲では観光に来ている人に旗振りをお願いしており、観光客が増えている。いろんな切り口で魅力を発信いただきたい。 ・横のつながり、1か所で終わるのではなく、もう1か所、ここにも行けるというものを模索してほしい。 ・フェイスブックなどで頑張っている人との情報交換など、いろんなことに尽力していただきたい。 ・予算の減額ではなく、事業をやりたいから補助金をという手上げ方式の切り口で増やしてみてはどうか。
------------	------	--

今後の方向性（ACTION）

の経営最終者判断議	事業の方向性	☐	さらに重点化する。	コメント欄 補助金の支出に関しては、提案型による支出に変更すること。
		☐	現状のまま継続する。	
		☒	右記の点を見直しの上、継続する。	
		☐	事業の縮小を行う。	
		☐	事業の休止、廃止を行う。	